Thinking Rugby 2002～2003　復活、飛躍への視点と論点　その4

“ＬＡＷの意志を具現するレフリング”

雨にも負けず、風にも負けずに練習に励み、必死に戦っているプレーヤー諸君には激励する以外の何ものもないのですが、記憶したルールで頭の中がいっぱいで、そのほかのことは何も考えられないで、真剣そのものの顔をして笛を吹いているレフリーには、ご苦労さんという言葉だけでは済ますことのできない問題があります。

試合の内容を話題にする場合に、プレーとレフリングの関係で、問題として卵が先か鶏が先かという類の議論になることもあります。反則があったから笛を吹いて罰したと簡単に済まされてはいけない問題もあるのです。ラグビーを楽しもうという場合、レフリングのことも視野に入れることは当然のことであって、避けて通れることではありません。プレーヤーや観衆は、レフリーの意欲と労苦に敬意を払い感謝の気持ちを忘れてはなりませんし、一方、レフリーはそれらを超えた次元で、レフリングを学び楽しむ姿勢が求められていることを忘れてはならないのです。

さて、レフリングのバイブルと言われている The Art of Refereeing から多くのことを学ぶことができます。その始めの方の一節です。

Since refereeing is an art not a science, this is not an exhaustive treatise. It' aim is to advise, to recommend, rather than to dictate, to suggest certain methods of approach to this difficult but tascinating business to lay a foundation on which the young referees can build his own individual style.

Laws について も次のように書かれています。

Laws legalies certain as well as providing penalties for illegal action. Laws can be, and are, positive in nature as well as negative.

ラグビーの歴史から説きおこし、Laws についての理解を求めています。そして基本的理念をもって、芸術的なレフリングをめざすことの重要性を述べています。

最近のThe RFU Rugby Union Referee's Manual に興味ある一節があります。

Some will say that refereeing is an art, some a science, but it is neither. Refereeing is a skill and, like any other skill, it can be taught and learnt.

スポーツも文化の一つであります。その時代の社会の影響をうけて生き物として発達し、変遷をとげます。レフリングが skill として捉えられるのも、科学的で合理主義、物質文明の今日においては当然の流れでしょう。レフリーの仕事を補完する人の増強や、機器の導入も是認されるようになってきました。しかし、レフリーは任された一人として、志をたて、努力してすばらしいゲームを創造しようとする決意と精進が大切です。マニュアルにも3つのことがあげられています。

Firstly, he needs to have an empathy.
Secondly, the successful referee will be a good communicator.
Thirdly, the referee must be fit.

ラグビーを愛し、楽しむ心が糧となります。研究と努力を重ねて、目指すレフリングの目標を高く掲げ、その中でもこれだけはという項目、即ちonly one なるものを確実に達成出来るように心がけることが肝要です。only one として掲げるべき課題は、ルール の根底に流れている精神で、ルールの意志である次の３つの大綱そのもので、中でも2番目の目標はレフリーの意識とレフリングによって左右されるものです。

１（equal）　・双方同等公平な状態からの開始とフェアーな進行を促進する
２（open）　・ゲームの展開継続を徹底的に達成する
３（safety）　・事故の予防と厳格な対処による再発防止

LAWの意志を具現するという目的達成のために、レフリーとして努力し成長の糧にしなければならないことがらを確認しましょう。

その１．ルールを「正しく守る」（守らせる）

ルールは、ラグビーという競技を楽しむ目的で、人間が作ったものです。その意図を理解し具現することによって、ゲームを楽しみ、楽しいゲームを創造するという理念と心構えが大切です。ルールを理解するという場合、ルールを記憶するだけでなく内容を理解しなければなりません。理解ということ、そのルールの決められた過程と目的を知らなくてはなりません。レフリーが理解しても、プレーヤーやコーチがルールをどれだけ理解し、実践してくれるかという問題があります。それらが十分になされていない場合にどのように対処するか予習しておかなくてはなりません。レフリーにとってルールを正しく守るとは、ルールの意図が具現できるように、態度と説明と適切な技術によるリードによってプレーが継続するように信念をもって意識的に笛を吹くことです。

その２．レフリングの技術を高める

ルール理解の次に、ルール適用の技術を高めるという課題があります。位置と状況に応じて立つ位置を選定し、無駄なコースを走らないとか、即刻に早く吹く場合と十分間をおいて吹く場合などがあります。ルールの正確な理解は勿論です。例えば、スローフォワードの判定を誤ったために、最高のプレーを抹殺してしまう場合などです。

Let's read and enjoy Laws の補足として「レフリングの今日的課題研究」というコラムを書いて、スローフォワードの判定について注意を喚起しましたが、改めてルールに対する基本的認識と、走力と位置取りの研究が必要であり、ゲームの先を読む訓練も必要なことです。

ルールが創世期から比べれば非常に細かくなってきました。高度の技術が必要です。技術を高める過程で大切な心情があります。スポーツは人間が楽しむものということは、裏返せば人間的にやりなさいということです。例えば、スクラムにボールを入れる速さは moderately と長年されてきました。誤解のないようにしておきましょう。

moderate（中庸）万事精密正確にという流れの中で、取りようによってはあいまいとも取れる含みのある中庸という言葉で大切とされてきました。中庸を守りあってこそ円滑に進行し、楽しいのだという思想が根底にありました。もう一つreasonable という考え方があります。reason （理由）理由の有無だけでなく、広い意味での理由をも含んだ常識的であることが大切であるという思想が根底にあります。物の値段がreasonable であるという場合は、高いにせよ安いにせよ、その品物を広く評価して常識的で納得のいくものということです。

その３．権威に対する自覚をもって責任を果たす

レフリーに文句を言ってはいけないということは、権威に対することで、レフリーが独善的でプレーヤーと懸けはなれ、孤立的になってはいけません。

関連のあるルールを復習しましょう。

5-a the sole judge of fact and Law during a match.

唯一の事実と協議規則の判定者であることには変わりありません。

6 All players must respect the authority of the referee.

プレーヤーはレフリーの権威を尊重しなければならない。

They must not dispute the referee's dicisions.

レフリーの決定に反論してはならない。

反論できないからということで、レフリーが一つのミスを帳消しにするために相手側の反則を一つ見逃すといったことが許されないのは当然のことです。首尾一貫することと併せて大切なことです。

7 The referee may alter decision

レフリーは決定を変更することができ、意見を求めることができることになりました。may ができると訳されていますが、can でもable でもなく、してもよい許可の内容をもったものです。

ゲーム中の問題解決をキャプテンが解決していた時代から、umpire が導入され、さらに referee が導入され補助としてタッチジャッジが導入される長い過程がありました。ラグビーが普及発展する中では必要なことでしたし、ゲームが急速にスピーディになり、複雑なプレーが普通のこととなり、レフリー一人では無理という状況のもと、プレーヤーも観客もより一層正確な判定を要求するようになりました。

6条B-6　タッチジャッジから危険なプレーあるいは不行跡があった合図および不正な行為があった合図があった場合は、レフリーは「必要と判断するどのような措置をとってもよい」ということは、競技以前の問題として厳格に処置するのです。

昔はレフリーが唯一の判定者であることが大変強調されました。

・・・レフリーは一旦与えた決定を変更することはできない cannot alter そして「ただしタッチジャッジが旗を上げ続けている事実を知らない決定を下した場合を除く」となっています。この場合はタッチになっていた場合のことをさしています。

その４．補助の係と機器の導入についての認識を高める

全ての試合が同じ条件で行われるわけではありませんが、基本的なことについて考えておき誤りなく対処することが肝要です。レフリーに見えないところがあります。性善説と人間は万能ではないことを説明してきました。時には、背中の後方を振り向かなくてはなりません。そのチャンスはありますが、常に見逃していると、プレーヤーはそれに慣れてしまうものです。流れの中でもたまに振り返る余裕はほしいものです。プレーヤーの陰になって見えないことがあります。ボールを追っていると、ボールに関係ないところのことを完全に見ておれません。ボールと関係のないところで（タッチジャッジの目の前で）倒れている相手を蹴ったということでアピールがあって罰せられたケースがありました。

6nations でトライかどうかでレフリーはタッチジャッジの意見を求めさらに補助の係と機器を活用し相当な時間をかけて正確を期しました。ビッグゲーム以外は補助の係員や機器が導入されるわけではありませんが、正確を期すという基本的に考え方としては重要なことです。未熟なタッチジャッジに対する指導が必要な場合はおろそかにしてはいけません。

その５．信念とゆとりをもって

6条A-4 「レフリーは試合前に、いずれのチームにも助言を与えてはならない」ニュートラルであることの保証として大切なことです。しかし、一切喋ってはならないということではありません。プレーヤーとの意思の疎通は大事です。そのためにも服装の点検をスムースにするために適切な会話が有用且つ有効です。また試合中にレフリーの顔が堅すぎるのはマイナスで、プレーヤーを理解することに努めているとはいえないものです。笛の説明はゼスチャーを含め分かり易く納得させることによって、コミュニケーションをとることになるのです。レフリーにゆとりがあることがプレーヤーの無用の興奮を防ぐことになります。プレーヤーのミスやタッチの場合の笛の強さと、危険な行為や妨害の時の笛の強さは当然ちがうべきですし、顔の形相も厳しくあるべきです。そうあって初めてゆとりが生きてくるのです。

楽しいゲームはフェアーなプレーヤーとニュートラルレフリーの合作です。どちらかが不完全であっても、すばらしい作品はできません。キャプテンが話し合って問題を解決した時代から、普及発達の線上に、アンパイヤーそしてレフリーが導入されましたが、基本理念としてはペナルティを全面的に肯定したわけではありませんでした。技術的には芸術性の高いレフリングを目指して努力しなければなりません。

言うは易し、行うは難し　です。30人が自由に不定型に活動するのですから不確かなこと、例えば、げんこつが相手に当たったという場合の進行も微妙です。整理しましょう。何の問題もなくゲームが進行し続ければよいのですが、復讐行為があれば放置できません。復讐を罰しなければなりません。

偶然か故意かを判断する要素は、そのことだけで判断するのではなく、以前のプレーの流れに留意すると、「その」プレーの内容がみえてきます。問題行為の繰返しはミスや偶然とは見なしてはいけませんし、させてはならないのです。イエローカードやシンビンはあくまでも警告として準備されるもので、免罪符となってはいけないのです。ルールとしてあっても、適用皆無をめざすべき性質のものです。

ボールを放したか放させなかったか判明しにくい場合のために、15条の予習と復習が大切です。ルールを正しく守る心がけがあれば、必ず解決します。

有用であり必要である的確な説明とゼスチャアーを的確にしなくてはなりません。プレーヤーは「反論してはいけない」からしないだけです。不満を持たせないように落ち着いて、納得させる説明をし、宣告に終始してはいけないことはもちろんです。観衆のブーイングを受けないためにも、そのムードが明確であれば遠くの観衆に十分伝わるものです。

その６．基盤となる豊かな日常生活

レフリングは日常の生活の影響をうけます。心身の健康が土台になります。そのうえでの身体づくりと、準備がレフリングを左右します。試合中にミスをすることも皆無とはいえないでしょう。失敗を引きずらないようにしなければなりません。いつもいつも楽しく終われるとはかぎっていません。批判は甘んじて受ける気持ちで、信念をもって明るくenjoy refereeing することがレフリーの美学です。

レフリングに行き詰まり、自信をもてなくなったとき、発想の転換が必要です。時には、夏目漱石の言葉が、考えを整理するのに役立ちます。

「智に働けば角がたつ。情に竿させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は　　住

みにくい。住みにくさが高じるとどこかへ引っ越したくなる。どこに引っ越しても同じだと分かったときに、詩が生まれ、絵が生まれる」

ルールを厳格に適用するのがレフリーの仕事だと割り切っていても、それだけでもないと心に残る。プレーヤーの気持ちを尊重しようと努力しているうちに判断にタイミングがずれる。一生懸命やっているのに、プレーヤーから遊離してしまって、不満だけをの残すことになる。

レフリングに行き詰まり、心のゆとりが無くなったとき、役立つ言葉がTHE RUGBY DICTIONARY・WEBSTER AND MITCHELL にあります。ユーモアを感知してください。

Referee:
Was given a whistle as a small boy and enjoys blowing it constantly. Interrupts what would otherwise be an exciting stoppage-free game of Rugby. Can recite Law26 (3)(f) quicker than the date of his wife's birthday. Has no color sense, sticking mostly to white coordinates. Has a very divisive effect on the game as half the people love him (the winners) and the other half think he's (1) blind, (2) a rotten cheat, (3) both.

言葉の向こうにあるものを消化吸収して、笑って楽しめばよいのです。勉強不足、経験不足で笛を嬉しそうに吹きまくっている少年に見られては信頼されません。

stoppage-free 止めること自由とは皮肉った言い方というよりも痛烈な非難です。

妻の誕生日よりよく覚えているというのは日本人にはピンとこないかもしれません。

rotten 卑劣な、つまらないとか cheat 詐欺、ペテンといった表現は度を過ぎていますが、過激な言葉が使われるということです。物事を正面でなく斜めからみたもので半分の人ということは、全部の人が言うのではなく、どちらかということです。言葉の内容は、尺度不明確で正確とは言えませんから、深刻に考えないで、経験と研究を積み重ねていくべきでしょう。柔軟に右脳を働かせた工夫のひらめきが大いに役立つこともあるでしょう。

2003.04.05
西川　義行